

脳神経外科学・眼科学・耳鼻咽喉科学・口腔外科学		講義	教授 加藤 政彦 教授 千明 政好 非常勤講師 山口 貴子
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13361201

1. 授業のねらい・概要

救急医療において必要な頭部および顔面に関連する病態生理と各疾患についての理解を深め、知識を修得する。

- 1) 中枢神経系（脳・脊髄）の解剖と機能の概要、および頭蓋内病変により生じる各疾患の病態と救急現場において見落としてはならない神経学的所見を学修する。
- 2) 感覚器が集中する頭頸部領域に発生する疾患は多岐におよぶため、それらの特徴を理解するとともに、各疾患についての知識を修得する。

2. 授業の進め方

テキストの内容を、適宜、スライドと配布資料を用いて授業する。授業の最後に最近の国家試験問題などを出題し解答を出席カードに記載して提出させる。適宜、論文や新聞・雑誌の記事などから具体的な出来事を取り上げて診療の現場に即した説明も行う。

3. 授業計画

1. 頭部の解剖生理の理解 救急症候や疾病を学ぶために必要な頭部の解剖・生理についての知識を整理する。 2. 脳神経系の構造と機能の理解 中枢神経系の特殊性、神経機能と脳の解剖学的関係について理解する。 3. 中枢神経系の特異な徴候 意識障害・頭痛・けいれんの分類、特徴の理解を深めるとともに、評価スケール（Japan Coma Scale, Glasgow Coma Scale）などを学修する。 4. 脳腫瘍 代表的な脳腫瘍の種類と症状や治療について理解する。 5. 出血性の脳卒中・脳血管障害 病態による分類と代表的疾患（くも膜下出血・高血圧性脳出血）の症状や治療について理解する。 6. 虚血性の脳卒中・脳血管障害 病態による分類と代表的疾患（脳梗塞）の症状や治療について理解する。 7. 頭部外傷、水頭症 病態による分類と代表的疾患（頭蓋骨骨折、急性硬膜外血腫・急性硬膜下血腫・脳挫傷など）の症状や治療について理解する。	8. 脊髄・脊椎疾患、末梢神経外科 脊髄血管障害、脊髄炎、末梢神経障害について理解する。 9. 耳鼻咽喉科に関する疾患 良性発作性頭位めまい症・メニエール病・突発性難聴を中心に各々の特徴、病態や症状について理解する。 10. 眼の疾患 急性緑内障発作、白内障、眼外傷を中心に各々の特徴、病態や症状について理解する。 11. 口腔の疾患 口腔外傷に焦点を当てて、発生機序、症候や処置について理解する。 12. 顔面・頸部の解剖生理の理解 救急症候や疾病を学ぶために必要な顔面・頸部の解剖・生理についての知識を整理する。 13. 咽喉頭・食道の疾患 呼吸器系や消化器系疾患との関連性を含めて、咽喉頭・食道の疾患について理解する。 14. 気道確保 傷病者にとって侵襲および非侵襲的な気道確保の種類と特徴についての理解を深める。 15. 第10回～14回までのまとめを行う。
--	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、テキストと配布資料を使って復習しておく。さらに、授業の最後に出された問題を復習しておく。この問題は次回の授業の初めに解答を解説する。なお、これらの準備学習には90分以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回、過去に実施された国家試験などの問題を実践，解答させる。問題解答の際，また定期試験実施の際，解答のポイントおよび出題意図を試験終了後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) 脳神経の解剖および機能と救急医療における脳神経外科疾患の病態を理解する。
- 2) 眼科・耳鼻咽喉科・口腔外科領域の臓器の特徴や病態を理解し，疾患に遭遇した際の適切な対応を修得する。

7. 成績評価の方法・基準

平常点（30%），定期試験（70%）を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト：生塩之敬，種子田護，山田和雄 編，ニュースタンダード脳神経外科学 第5版，三輪書店，2024年

参考文献：小関一英編，2023年版救急救命士国家試験対策出題分野別国試験問題・解説集，晴れ書房，2022年

テキストは毎回の授業に必ず持参すること。また，参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。

欠席回数が全講義回数の3分の1（6回）以上となった場合には受験資格を失う。

遅刻，欠席ならびに授業中の私語，許可の無い教室の出入り，授業に関係ない言動は慎むこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。医療機関における医師としての実務経験を活かして講義を行う。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。